

傍聴者 24 人（うちアンケート提出者 14 人、回収率 58.3%）

## 1 ㈱内田洋行の提案

- ・新しい図書館という事で、市民から要望の多い「読書通帳」を小千谷コネクトとしてやったら？と思い、今ケータイで調べたらそもそも読書通帳は㈱内田洋行が始めたものと知った。紙ベースではなく、現在、アプリ等はないのだろうか。QR でかざして借りたものはアプリでデータ管理できますか？利用者の拡大につながると思うんですが…。小千谷コネクトアプリとすればインストールすることによってその人の使っている SNS と連携し、オススメの図書を施設のエリアに入った時に教えてくれる機能があれば楽しい。人は「お金」が好きなので、金額を蓄積することってカッコ悪いけど人は惹きつけられると思う。フロートで、関連図書が自然発生する…本が元々好きな人にはとても良いが、そもそも本に興味がない人に対しても読書人口を増やすなら、施設の利用者を増やしてにぎわいをつくりたいなら、「お金」を利用するのは安直だけど結果は出そうである。
- ・全国規模の展開ある業者で、ダイアログでも壮大な内容の話になって行った。興味深かったものの、現実的ではないように感じた。一地方都市で実現可能な範囲を真剣に考えるべきでは？人的、人材、予算…etc まかなえない。審査員のみなさんは掘り下げるところが違うような…夢のような話。わかるけど、できないでしょ、とってしまいました。
- ・3 者の中で図書館らしさを感じた提案内容であった。想像ができた。
- ・運用が想像つきやすいと感じた。
- ・安全だけど、つまらなく感じた。
- ・内田洋行の UX を検索して理解したい。システム「オイテミンホン」は実績もあり実現性が高いと感じた。
- ・ほぼ理解できなかった。
- ・既存のものを使った現実的なサービス提案だと感じた。プレゼンについては、時間に対して上手くまとめられておらず、提案の全体が見えなかった。
- ・デジタルサイネージ、「オイテミンホン」が今後どのように活用されるか、興味が持てた。
- ・オイテミンホン。パソコン・キーボードを使わないのは高齢者には有難い。自宅にいて本が閲覧できるのはとても良いと思う。
- ・実際に図書館で本を探すとき、アプリで自分で読んできた本から関連づけられた本を図書館に来る前 or 図書館内で調べ、その後館内の検索システムを利用するといった方法をとっている。オイテミンホンがあればそれが一括できて便利そう。サイネージが機能するように置き場所に工夫が必要。通過点ではなく、フロート、ブラウジングコーナーなど。
- ・提案のキモは「小千谷コネクト」（小千谷独自のキーワードを設定するとか）がよいのでは？オイテミンホンは千代田区の図書館や美大の図書館でも最初は使われていたが、飽きられてしまう。かざさなくても類似本が表示されるアイデアはよいと思う。面白そう。郷土資料の PDF の蓄積、共有、提供はぜひやってほしい（国会デジタルのような全文検索システムも欲しい）。
- ・既存の枠組み。

## 2 CEC 新潟情報サービス㈱の提案

- ・デジタルとアナログの行き来…電子を読むことと紙を読むことの違いをそろそろ形にできないか…。今はデジタル社会への過渡期であり、時代的にはすごくデリケートな時期。ただ、色々なコンテンツをためにために人が検索しやすいだとか、オススメが出るとか、「なめらか」ではなく「ジャリッ」としたのものにも引っか

かるヒントを出す…それってタダタダ人間の脳を使わなくなる方向にしか行かない気がした。AI や ChatGPT とかって、ただでさえ脳を 5% くらいしか使っていない人間が 1% 以下しか使わなくなる怖さを感じた。

- ・フロートの使い方を具体的に論じられた。検索結果をどうするかがキーと感じた。アーカイブスはどう集めるのか？構成するのか？
- ・本を探す機能が優れていると感じた。本との出会いが期待できた。
- ・リアルと創造のバランスがとれていると感じた。
- ・複合施設の目的をよく理解され、より良いシステムを作る意志を感じた。
- ・フロートを意識した、建物を意識した提案と感じた。様々な循環が具体的に提案されていると感じた。
- ・半分ぐらい、理解できなかった。
- ・プレゼンからダイアログまで、とてもスマートだった。
- ・説明がわかりやすかった。フロート活用（小千谷）についてイメージできた。連想検索の面白さが活かせるように思った（遊びのある検索）。複合施設としての機能連携がよくわかった。
- ・柔軟。

### 3 おぢや複合施設プロジェクト共同企業体の提案

- ・資料としては一番興味があったが、内容は抽象的で分かりにくかった。
- ・若者らしい熱量を感じた。開館当初はうまく行くと思うが、代が替わった時どうなるか。持続できるシステムになるのか？保守は？
- ・図書館という場所をどう活かすかが魅力的に感じた。
- ・創造性をとても感じた。
- ・ユニーク。UX の高さが期待できる。30 年後に会社が残っているか。
- ・開館後のシステム改善、発展性を感じた。地域、地元を意識している提案。
- ・唯一、理解できた。
- ・ユニークな提案だが、実際に進めることができるのか、現場レベルでのイメージがしにくかった。
- ・地元の企業さんたち。どうなるか、想像ができない。今までにない図書館になりそう。
- ・地元若手技術者を育てるという発想がよいと思った。情報を作って発信する仕組みが具体的にイメージできた。実装して本と（フロート）とどうつながるかについて、もう少し聞きたかった。ジャパンサーチのようなこれまでの図書館にはない可能性を感じた。夢のあるシステム。
- ・フワフワ。

### 4 公開審査（プレゼンテーション及びダイアログ）の形式全体

- ・こういった自由な意見交換をする場が公開されることは新しいと思ったが、一般人は質問すらできないのであれば ZOOM でも対応して欲しかった（記録されたくないという理由なのかもしれないが…）。
- ・一者一者の提案が違うことが分かりやすく、公開することにより市民に透明性が担保できたと思う。
- ・プレゼンテーションの時間をもう少し長く聞いてみたかった。
- ・最初のプレゼンテーション時、照明が真っ暗で手元の資料も見えず（途中でつきましたが）、画面も見えずらく残念だった。
- ・とても興味深く拝見した。あまりこういった機会がないので、とてもよい機会となった。事業者側の方とお知り合いなんだろうなと感じるところが多々あり、少し気になった。
- ・一般（傍聴者）からの質問も受けて欲しい。
- ・審査員との仕切りを感じない一体感を感じた。椅子の配置もよかった。
- ・昼休みを挟まず、午後だけの方がよいと感じた。

- ・選定委員以外で、3者を聞き比べる機会はめったにないため、貴重な経験をさせていただいた。
- ・3者のお話がとても興味深かった。
- ・ダイアログの形式は自由な発言で、臨場感があり、傍聴席からもそれを楽しめた。

## 5 本事業に期待すること

- ・歴史…民間の本屋と違うところは、単に本が売ればいい＝図書館にしてみたらたくさん本を借りて欲しい、人が来て欲しいということではなく、そこはかたなく、その郷土の歴史を知って欲しいという部分を感じる。それであれば、システムAI的にも若干そっちに誘導するようなAIを構築することで、市民が気づいたら歴史に触れていたという事があってもよいと思った。Googleの検索エンジンだって平等ではない(かたよって)訳だし…。
- ・小千谷アーカイブスの構築と情報発信。記録をどう残していくのか興味津々。
- ・魅力のある施設になってもらいたい。利用できるようになる日が楽しみ。
- ・お話を聞いていると、私たちが考える(従来の)「図書館」とは違った「図書館」になると感じた。「小千谷の図書館」がどう変わるのか、その大きな変化を期待している。
- ・子供達が進学等で市外に出ても、小千谷に帰って来たいと思える思い出、経験ができる図書館であって欲しい。海外観光客の案内拠点(パスポート、マイナンバーカードだけで利用可)。図書カードは不要だと思う。
- ・集客(市外からも)。皆が集える場。
- ・どんな複合施設、どんな図書館ができるかとても楽しみである。
- ・実例がないので想像できないが、リアルとバーチャルの融合がどのように具現化されるか楽しみ。
- ・図書館+αの施設になること。
- ・使われないシステムにならないように期待している。今まで図書館に縁のない人も集まる場所にしてほしい。

## 6 その他

- ・プロジェクトとしては素晴らしいが職員が耐えられるのか、後任はいるのかが心配になった。
- ・20年、30年変化に対応できるOSシステムの上に、AIによるインターフェースの構築。使われそうにないサービスを削ぐ。
- ・メモするための机やボードがあれば有難かった。
- ・公開審査を傍聴できてとても良かった。
- ・図書館機能を充実させることで市民にとってどのような効果があるのか。それが理解されないと「新図書館を利用しましょう」という動きが官から民への一方的な押し付けとなる恐れがある。(反発する人が迷惑だから閉館時間早めてくれなど)。コンセプトとして官民相互の発信が重要なようなので、機能が十分に発揮されるよう、市民理解の醸成を大切にしたい。オープン楽しみにしています!(市外ではありますが)
- ・本を読まない人、読めない人が増えてきている。本を読む人を増やすようなイベントなどやってほしい。料理本から料理教室をしたり、楽しめるイベントがあるといいと思う。

以上